



宮地楽器
MUSIC ONE

MUSIC ONE
宮地楽器本店



1階はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、木製リコーダー、チェンバロなどクラシック楽器を扱う専門店。国内外の弦楽器製作家による貴重な手工作品や主要メーカーの弦楽器や弓、久保田チェンバロ工房製のチェンバロ、豊富なラインナップと展示数を誇る木製リコーダーを取り揃えています。弦楽器の修理工房も併設しておりますので、大切な楽器のアフターフォローもお任せください。2階では著名なヴァイオリニストやピアニストなどのアーティストから直接指導を受けることができるエグゼクティブなレッスンを展開しています。オト・モノ・コトの体験をお届けする都心の新しい「音の場」です。

東京メトロ丸ノ内線 淡路町駅・都営新宿線
小川町駅(徒歩2分)
JR中央線 御茶ノ水駅(徒歩6分)

☎ 03-3525-7705



〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-4
WORK VILLA MYJ kanda 1F・2F
営業時間 11:00~19:00
<https://www.miyajimusic.com/musicone/>



音楽のある毎日
宮地楽器®
小金井店ショールーム

宮地楽器
小金井店



ヤマハピアノ、ヨーロッパ輸入ピアノ、エレクトーン、電子ピアノなどの鍵盤楽器が並ぶショールーム。弦楽器は国内外のハンドメイド品や各メーカーのスタンダードモデルが充実しており、弦楽器専門の修理・調整を行う技術者も常駐しています。このほか人気の木製リコーダー、アイリッシュハーブ、国内外楽譜、各種アクセサリなども多数取り揃えています。

JR中央線 武蔵小金井駅北口より徒歩3分

☎ 042-385-5585



小金井市本町5-14-10
営業時間:10:00~18:00
(夏期・年末年始の一部をのぞき年中無休) 日曜・祝日も営業

<https://www.miyajimusic.com/koganeishop/>



MSC MIYAJI String Circle
宮地楽器 弦楽器友の会

特典
いっぱい

♪弦、ケースなどの付属品が **20% 割引**
♪セールやイベントなどの
お得な情報を提供



ホームページから入会可能

入会金・年会費 無料

<https://www.miyajimusic.com/members/msc.php>

MIYAJI

宮地楽器特選 日本人弦楽器製作家名鑑 2025

Hiroshi Kikuta Violin 2024

天野年員 Toshikazu Amano



完全受注製作

ヴァイオリン

¥1,650,000

(本体価格:¥1,500,000)

ヴィオラ

¥1,980,000

(本体価格:¥1,800,000)



Violin 2019

紹介ページ



会社員生活ののち、30歳でクレモナへ渡り、国立弦楽器製作学校に編入。ロレンツォ・マルキ氏の指導のもとでヴァイオリン製作を学ぶ。さらにジオ・バッタ・モラッシー氏の工房でも研鑽を積み、プロ製作家としてのキャリアを開始。また、同時期から帰国までの5年間、世界的鑑定家エリック・プロット氏のもとで銘器の修復に携わる。豊富な経験は天野氏の作品作りに存分に活かされており、新作でありながら銘器のような風格を持つ音色作りは、強豪がひしめくコンクール Violino Arvenzis でも総合1位を獲得するなど、世界的にも高く評価されている。

高橋明 Akira Takahashi



参考価格

ヴァイオリン

¥1,980,000

(本体価格:¥1,800,000)



Violin 2022

紹介ページ



13歳でヴァイオリン製作と演奏を同時に始め、15歳にして独学で第1号のヴァイオリンを完成させる。会社員生活ののちクレモナへ渡り、国立弦楽器製作学校に編入。プリモ・ピストーニ、アレックス・ヴォルティニ、サンドロ・アジナリの各氏に師事。2007年のチャイコフスキーコンクールでのシルバーメダル獲得、2013年のViolino Arvenzis優勝、そして2021年クレモナ・トリエンナーレにおいてA.L.I.賞を受賞するなど、その活躍は目覚しく、いまや現代クレモナを代表するマエストロのひとりとなった。ほぼ同時期にクレモナに渡り共に学んだ菊田氏とは良き仲間でありライバル。現在は共同工房を構えている。

菊田浩 Hiroshi Kikuta



完全受注製作

ヴァイオリン

¥2,200,000

(本体価格:¥2,000,000)

ヴィオラ

¥2,640,000

(本体価格:¥2,400,000)



Violin 2024

紹介ページ



クラシック音楽の音響エンジニアとしてNHKに20年勤めたのち、ヴァイオリン製作の聖地イタリア・クレモナへ渡り、国立弦楽器製作学校の3年生に編入。ロレンツォ・マルキ氏とニコラ・ラザリ氏に師事。その後わずか10年ほどの間に、2006年ヴィエニャフスキーコンクールでの日本人初優勝、2007年チャイコフスキーコンクールでのゴールドメダル獲得など数々の快挙を成し遂げた、日本が世界に誇る製作家である。

根本和音 Kazune Nemoto



完全受注製作

ヴァイオリン

¥ASK

ヴィオラ

¥ASK

チェロ

¥ASK



Violin 2022 (参考掲載)

紹介ページ



1991年千葉県に生まれる。2007年短期楽弓製作コースを受講。リード・ハドソン氏より弓製作を学ぶ。同年中学卒業後、単独15歳で渡伊。イタリア・クレモナの国立弦楽器製作学校へ入校。製作をマッシモ・アルドリ氏に習う。卒業後は意欲的に製作コンクールへ出場し、数々の賞を受賞。2018年フランチェスコ・ト氏の元でアシスタントを開始、同時に自身もプロとして新作楽器の製作を始める。2019年9月には、フィレンツェ国際弦楽器製作コンクールチェロ部門で第1位獲得。2021年9月、第16回クレモナ・トリエンナーレにおいて、日本人としては初となるチェロ部門でのゴールドメダルを獲得する。世界のトップレベルの製作家の仲間入りを果たし、現在最も注目される若手製作家である。

伊東Lazzari渚 Migiwa Lazzari



紹介ページ



東京都出身。国立音楽大学をトランペット専攻で卒業後、故佐藤正人氏との出会いをきっかけに弦楽器製作の世界に足を踏み入れる。その後、より本格的に弦楽器製作を学ぶためにクレモナへ移住。クレモナの国立弦楽器製作学校ではGiorgio Scolari氏に師事し、製作テクニックの仕上げのため、Nicola Lazzari氏の門を叩く。現在は、師匠でもあり夫でもあるNicola Lazzari氏と工房で仕事を共にし、クレモナトップレベルのクオリティーの作品を作り続けている。

2015年 第4回国際コンクールViolino Arvenzis ファイナリスト及び最優秀女性製作者賞受賞

2022年 第8回国際コンクールViolino Arvenzis 6位入賞及び最優秀技術賞受賞

2023年 第1回国際弦楽器製作コンクール"G.B Guadagnini" 2位

2023年 第17回国際弦楽器製作コンクール ビゾーニエ ヴァイオリン及びヴィオラにて金賞受賞

参考価格 **ヴァイオリン**
¥1,650,000 (本体価格:¥1,500,000)



Violin 2024

坂本忍 Shinobu Sakamoto



紹介ページ



1997年イタリアへ渡り、クレモナ国際弦楽器製作学校に入学。今もクレモナに工房を構え、精力的に活動中のベテラン製作者。ピエール・ルイー・アロマティコ・ファントーニとリッカルド・ベルゴンツィの元で製作を学ぶ。

現在は、修復の分野で造詣の深い宮川賢治氏に意見を求めつつ、クレモナで楽器の製作を続けている。自らが演奏していた経験から、チェロの製作にも意欲的に取り組み、抜けるような音色と抜群のレスポンスで評判が高い。

参考価格
ヴァイオリン
¥1,320,000 (本体価格:¥1,200,000)
チェロ
¥2,750,000 (本体価格:¥2,500,000)



Cello 2022

大月玲 Rei Otsuki



紹介ページ



1996年 東京生まれ。

高校吹奏楽部でコントラバスを担当、在学中に弦楽器製作に興味を持ち独学で製作を始める。

2014年 高校卒業後に代官山音楽院にて2年間、藤井大樹氏に製作、高倉匠氏に修理を習う。

2016年 イタリアに渡り、ミラノ市立弦楽器製作学校 (Civica Scuola di Liuteria di Milano) 入学。

製作をMichele Dobner, Mattia Riva、修理をGabriele Negri, Carlo Chiesa、またバロック楽器の製作をValentina Montanucciの各氏に習う。

2019年 セスト・フィオレンティーノ国際弦楽器製作コンクール学生ヴァイオリン部門 4位。

2020年 同校を卒業後、年末に帰国。

東京都稲城市にて楽器製作を中心に活動を始める。

参考価格 **ヴァイオリン**
¥1,100,000 (本体価格:¥1,000,000)



Violin 2023

高橋尚也 Naoya Takahashi



紹介ページ



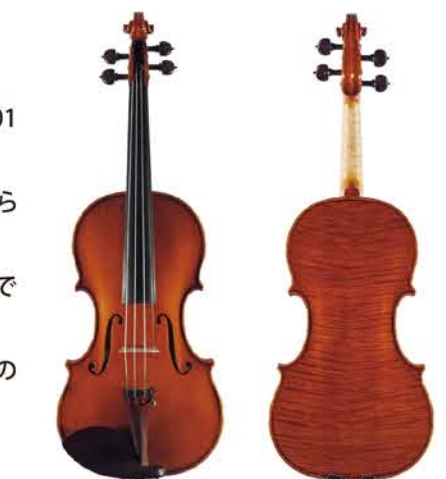
高知県出身。都内の弦楽器製作専門学校を卒業後、2001年イタリアへ渡る。

クレモナではモラッシー親子に師事し、その実力を認められ、アシスタントに抜擢される。

2008年からは世界的鑑定家エリック・プロット氏の工房でも名器の修復に関わるなど、多方面で活躍。

2011年に帰国し、故郷の高知県高岡郡四万十町に自身の工房を開設。

参考価格 **ヴァイオリン**
¥990,000 (本体価格:¥900,000)



Violin 2024

小寺秀明 Hideaki Kotera



紹介ページ



京都府出身。10歳よりヴァイオリンを弾き始める。2014年、クレモナ国立弦楽器製作学校に入学し、製作をヴァンナ・ザンベッリ、マッシモ・ネグローニ、楽器調整をダリオ・オッキピンティ、楽器修理をアレッサンドロ・ヴォルティエニの各氏に師事。在学中よりクレモナ市内に工房を構えるアレッサンドロ・メンタ氏に指導を受け、2022年クレモナにてメンタ氏と共同工房として開業。A.L.I. (イタリア弦楽器製作協会) プロフェッショナル会員。イタリア国際ANLAI弦楽器製作コンクールでメダルを獲得するなど、近年目覚ましい活躍を見せている。

参考価格 **ヴァイオリン**
¥1,100,000 (本体価格:¥1,000,000)



Violin 2022

陳(三苦)由木子 Chin Yukiko



紹介ページ



無量塔蔵六氏が主宰する東京ヴァイオリン製作学校を卒業後、都内の工房にて修理・製作を続ける。近年は現代クレモナ派の製作法を研究するため、クレモナにて名匠ファビオ・ヴォルタ氏のもとで研鑽を積む。2006年、第11回ヴィエニアフスキー国際ヴァイオリン製作コンクール(ポーランド)ではファイナリストとなり、ニス特別賞を受賞。2018年の第15回クレモナ・トリエンナーレでは、ヴァイオリン部門のシルバーメダルと、最優秀音響賞を受賞。

参考価格 **ヴァイオリン**
¥1,760,000 (本体価格:¥1,600,000)



Violin 2023

西村翔太郎 Shotaro Nishimura



紹介ページ



1983年京都府生まれ。2000年にヴァイオリン製作を始め、2001年、イタリアへ渡る。
2002年ミラノ市立ヴァイオリン製作学校に入学し、製作をバオラ・ヴェッキオ、ジョルジョ・カッシャーニ両氏に師事。ニス塗装技術をマルコ・イメール・ピッチノッティ氏に師事。現在、クレモナにてダヴィデ・ソーラ氏に師事。

2008年 イタリア国内弦楽器製作コンクール学生部門においてヴィオラの第3位と第4位を受賞。
2009年 イタリア国内弦楽器製作コンクール一般部門において、ヴァイオリン部門第2位受賞。
2010年 イタリア国内弦楽器製作コンクール一般部門において、ヴァイオリン部門で優勝。
同時にヴィオラ部門で第3位受賞。
2014年 シンガポールにて、政府関係者や各国大使の前で自身が製作したカルテットでのコンサートを催す。
2018年 クレモナバイオリン博物館、音響・化学研究所によるANIMAプロジェクトの主要研究員を務める。

参考価格 **ヴァイオリン** ¥ASK
チェロ ¥ASK



Violin 2023

藤井大樹 Oki Fujii



紹介ページ



4歳からバイオリンを習い始め、17歳から国内の工房にて弦楽器製作を始める。2006年、高校卒業後イタリアへ留学。クレモナ市の国立弦楽器製作学校 (I.P.I.A.L.L. A Stradivari) 入学。
製作をDaniele Scoriali, Wanna Zambelli、
修理・修復をClaudio Amighetti, Alessandro Voltini、
弓修理をEmilio Slaviero各氏に師事。
卒業後、マエストロ Edgar E Russ (Sound of Cremona s.r.l.) の下で製作・修理アシスタントとして働きアンティーク仕上げの技法等を学ぶ。2014年、日本帰国。代官山音楽院バイオリンクラフト&リペア科にて2年間主任講師として教鞭をとる。2020年からジブリパーク青春の丘“地球屋”バイオリン工房の監修、楽器の製作を担う。

参考価格 **ヴァイオリン** ¥1,430,000 (本体価格: ¥1,300,000)
ヴィオラ ¥1,540,000 (本体価格: ¥1,400,000)



Violin 2024

藤井汐里 Shiori Fujii



紹介ページ



大樹バイオリン工房チェロ担当。
18歳からチェロ演奏を学びはじめ、2014年、大学在学中から代官山音楽院バイオリンクラフト&リペア科にて弦楽器製作、修理を学ぶ。
卒業後は都内大手楽器店に技術者として勤務。
現在は大樹バイオリン工房にて自身の楽器の製作、修理・修復を行う。
2020年からジブリパーク青春の丘“地球屋”バイオリン工房の監修、楽器の製作に携わる。

参考価格 **チェロ**
¥2,090,000 (本体価格: ¥1,900,000)



Cello 2023

新作手工弦楽器を手にする喜び

〜ご挨拶に代えて〜

手工弦楽器とは

ヴァイオリン族の弦楽器は、誕生した約400年前から、熟練した職人の手仕事によってその製法を受け継がれてきました。20世紀に入ってから、増加する音楽人口に対応するため、早く、安く楽器を製造する必要性が生じ、ヴァイオリンも大量生産品が多くを占めるようになります。しかし、ほとんどすべての部品が木材から作られるヴァイオリンは、やはり今でも職人による手作りで仕上げるのが一番とされています。材料自体に個性がありますので、良い音のために最適なフォルム、板の厚さなど、職人の経験と感性に左右されるところが大きいです。こうして丁寧に手作りされた楽器こそ、永年愛用していただくのにふさわしいと言えるでしょう。



国籍による優劣はない

『外国人の楽器と日本人の楽器、どちらが良いのですか?』というご質問を、よくお客様から頂きます。結論から申しますと、製作家の国籍による優劣は、全くないと私たちは考えます。
ヴァイオリン族の楽器は、17世紀のイタリアで現在の形が完成したとされています。ヨーロッパにおけるヴァイオリン製作の長い歴史は、多くの優れた職人がその技術を伝承することによって紡がれてきました。それに対し、日本にヴァイオリンが入ってきたのはほんの100年ほど前のこと。以前は、音楽教育の現場ではヨーロッパの楽器が圧倒的に支持されていたのも、むしろ当然の事だったと言えるでしょう。しかし、近年では弦楽器製作の技術は広く世界中に広まり、日本にも多くの専門学校が設立されました。外国へ留学する人も多くなり、もはや弦楽器製作は世界中で行われているのです。



日本の技術とイタリアの芸術性の融合

真面目で勉強熱心な日本人の気質は、集中力と器用さが必要なこのジャンルにおいても遺憾なく発揮されています。
難関と言われる製作コンクールで受賞し、その実力を認められる日本人製作家も出てきています。
おそらく、日本人の真面目な性格と器用さは、ヴァイオリン製作には向いているのでしょう。
そして、彼らが突出した才能を持ち、高度な技術を身につけ、細部までこだわり抜いて製作していることは間違いありません。
しかし、イタリアへ留学した彼らが共通して口にするのは、イタリア人マエストロたちが重きを置くのは、むしろ細部の完成度ではなく、楽器全体から発せられるイメージの方だということです。細部の仕上がりよりも、全体の雰囲気大切にイタリアのヴァイオリン作り。
そんなクレモナのトップクラスのマエストロたちに学んだ彼らの作品は、日本人の気質とイタリア人のセンスを合わせ持った、新しい価値を有する楽器と、私たちは考えます。



菊田氏・2006年ヴィエニアフスキー
国際ヴァイオリン製作コンクール優勝時

お客様に近い楽器を目指して

こうして生み出された彼らの作品は、アマチュア奏者からプロまで、実に様々な方にご愛用いただいております。
なかには、レッスンをスタートしたばかりのビギナーの方も大勢いらっしゃいます。
大切なのは、製作家が魂を込めて作った作品を、演奏する方が自身と共に育てあげていく気持ちです。
日本人製作家の作品を所有することは、作品そのものの魅力に加え、別の魅力もあると私たちは考えます。